

いしずえ

学校教育目標

- ・意欲を持ち 自主的に学習する生徒
- ・人と郷土を愛し 進んで奉仕する生徒
- ・健康で はつらつとした生徒



新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いします。

私事ですが、今年還暦を迎えてしまいました。それは、退職が間近に迫っているということでもあります。新採の頃は、30代の先生すら実際の年齢以上に年上に見えたものです。40代は、おじさんに、そして、50代は視野になかったように思います。それが、自分が還暦になってしまったわけですから、当然思いは複雑です。しかし、歳をとったからといって、悲観ばかりしているわけにはいきません。わすかでも明かりを求めていかななくてはなりません。

「脳」は、これまで歳とともに確実に衰えていくものだと考えられていました。しかし、最近の研究で、実際はそうではなく、何歳になっても発達し続け、生涯現役だということが分かってきたというのです。さらに、脳を動かすのは脳自身ではなく、人の心や意識だということも分かってきたそうです。脳はテレビの受信機のようなもので、それ自体が歌ったり、ドラマを制作したりするわけではない。制作者は、我々の「思い」なんです。脳は、その人が「できる」と思ったことしかできないし、逆に「できない」と思っていることはできない。

つまり、固定観念で「こんな歳だし、もう無理」などと思い込むからできないだけであって、脳の可能性には限界はないということです。もちろん、体力にはある程度の限界はあります。でも、脳に限って言えば、誰でも、何歳になっても進化し続けることができるそうです。ですから、悲観してはいられません。プラスの意識をもって進化し続けたいといけません。

葛飾北斎は、90歳で没するまで森羅万象を描き、3万点の作品を残しました。臨終を迎えたとき次のような言葉を残したと伝えられています。

「死を目前にした（北斎）翁は大きく息をして『天があと10年の間、命長らえることを私に許されたなら』と言い、しばらくしてさらに、『天があと5年の間、命保つことを私に許されたなら、必ずやまさに本物といえる画工になり得たであろう』と言った。

また、70歳までの作品は取るに足らないものだとも言っています。

何という心の持ちようでしょうか。私も北斎の思いを心の片隅に起きながら、これからも精進したいと思います。

自主公開授業研究会開催

国分寺中学校では、教師の授業力を高めるため校内研修を数多く行っています。その中でも一番重きを置いているのが自主公開授業研究会です。今年度は、昨年の12月6日（水）に学習院大学教授の佐藤学先生をお迎えして実施しました。佐藤先生は国内だけではなく、海外でも活躍されている著名な方で、研究会の数日前まで香港の学校を訪問し指導されていたそうです。お忙しい中、本校は5年連続で来ていただき指導をしていただいています。

本校は、先生が提唱されている「学びの共同体」の理念の基、日々授業を進めています。「学びの共同体」とは、生徒一人一人の学びを保障することを重視した授業形態です。

今回の公開研究授業は、松島先生による国語で、以下の論語を扱いました。

論語1 之を知る者は之を好む者に如かず、之を好む者は之を楽しむ者に如かず

論語2 其の悪を攻めて人の悪を攻めること無し

論語3 速やかなんと欲すればすなわち達せず、小利を見れば則ち大事ならず

授業では、先ず上記の論語の意味について話し合いました。次いで、論語の言葉に合う体験談を発表しました。そして、最後に論語の言葉を引用して文章を書きました。

桑川

私は朝練にいつもぎりぎりに行っていた。ある日またま早く行ったとき、遅れてきた友達に「遅いな」と言ってしまった。その時、少し言い合いになってしまった。

この事から自分ができていることでも、人に言うべきではないということを知った。人に自分から気づかせることが一番大切だということを孔子は言いたかったのだと思う。私は、論語2を胸に生きていきたいと思う。



(公開授業・グループ協議の様子)

教育実習

昨年度末に、本校卒業の大塚さんが教育実習を行いました。毎年、数名の教育実習生が、教員免許を取得するために教育実習に来ています。大塚さんもその一人です。教員を目指す切っ掛けは何だったのか聞いてみたところ、国分寺中生だったときの久保先生との出会いだそうです。体育の授業での指導が、大塚さんの心に響いていたそうです。

そして、現在、大塚先生は教員になることを目指して大学で勉強しています。進路選択をするとき、尊敬する人との出会いが影響することはよくあることかと思います。皆さんのこれからの生活の参考になることを期待して、大塚先生からメッセージをいただきました。

中学校での一番の思い出

3年生の時の運動会です。学級対抗リレーで優勝、最優秀マスゲーム賞獲得、総合優勝と3冠を達成しました。また、生徒会役員として、運営したり、種目リーダーとなって下級生をまとめたりしたことで、自分の役割を達成できたことです。

国中生へのメッセージ

中学校生活の3年間はあっという間です。私は、中学校での3年間で数え切れないほどのたくさんのことを学びました。このことは、高校、大学でも生かされています。特に、「当たり前なことを当たり前



研究授業で説明している様子

前に」の習慣は本当に大切だと今でも感じています。あいさつ、返事、靴をそろえるなど、今のうちにしっかりやっておけば、社会に出ても通用する人間になれます。小さなことだと思うかもしれませんが、毎日の積み重ねで大きなものになります。頑張り続けてください。

母校の国分寺中での実習は、皆さんのおかげで充実したものになりました。私が皆さんに伝えたいことは、一つだけです。中学校生活に悔いが残らないよう卒業まで過ごしてください。4週間ありがとうございました。